

2024年 中野ハイティーン会議 報告書



2025年3月
中野区 子ども教育部 育成活動推進課
(受託事業者：認定NPO法人カタリバ)

目次

1 中野ハイティーン会議とは

理念・概要	P.2
昨年度までの実績	P.4
今年度の参加者概要	P.5
今年度の活動概要	P.6
各回実施内容	P.8

2 チャレンジ詳報

中高生の居場所チャレンジ	P.15
交流チャレンジ	P.19
校則チャレンジ	P.23
生徒会チャレンジ	P.26
政治参画チャレンジ	P.30

3 寄せられた感想

参加者アンケート	P.33
参加者ワークシート	P.36
報告会観覧者アンケート	P.37

①中野ハイティーン会議とは

理念・概要

中野ハイティーン会議とは、中野区在住または在学（在勤）の中高生が学校や学年を超えて集まり、中野区をより良いまちにするための話し合いや活動を行い、区長への意見表明に繋げるプログラムです。



メンバーは、自分の興味・関心や日常生活での疑問などを原点としてどのような「チャレンジ」に取り組むかを自分で決め、同じチャレンジの仲間とともに活動します。

フィールドワークやインタビューなどを経てテーマを深め、自分たちにしかできない「アクション」を実践し、それらを通じて感じたことや考えた「アイデア」を区長に提案します。

2024年度で22回目の開催となり、現在は「中野区子どもの権利に関する条例」（2022年4月1日施行）において定められる「子ども会議」の役割を果たしています。

「子どもの最善の利益」を考える地域社会の実現に向けて、区の様々な施策に子どもの意見が反映されることを目標とし、子どもたちの自由な意見表明・主体的な活動交流の機会を提供するために活動を行っています。

（「中野区子どもの権利に関する条例」より）

第3章 子どもにやさしいまちづくりの推進

（子どもの意見等の表明および参加）

第13条 区は、子どもが自分の意見等を表明し、参加する機会を確保するために必要な制度を設けるよう努めるものとします。

2 区、区民、育ち学ぶ施設および団体は、子どもの意見等の表明と参加をうながすため、子どもがその意味や方法について学び、必要な情報を得ることができるよう努めるものとします。

（子ども会議）

第14条 区長は、子どもの意見等を求めるための会議（以下「子ども会議」といいます。）を開きます。

2 区長は、子どもに関する区の計画その他区長が必要と認めることについて、子ども会議に参加する子どもの意見等を求めるものとします。

3 区長は、子ども会議に多様な背景を持つ子どもの意見が反映されるよう努めるものとします。

4 子ども会議は、参加する子どもの自主性と自発性を尊重して運営されるものとします。

5 区長は、子ども会議への子どもの参加がうながされ、子ども会議が順調に運営されるよう必要な支援を行うものとします。

6 子ども会議に参加する子どもは、第2項に規定することや自分が必要と認めることについて、その意見等をまとめ、区長に提出することができます。

7 前項の規定により提出された意見等について、区長は、これを尊重するよう努めるものとします。

昨年度までの実績

2021年度までは中野区直営事業として実施を続け、「ジェンダー」「AI」「自分らしさ」などをテーマに、中高生が生活の中で感じる疑問について調査・発表してきました。2022年度に認定NPO法人カタリバが運営事業者として参画し、学校や学年を超えた話し合い、区長への報告と言った要素はそのままに、「自分で行動してみる」ことを重視したプログラムとしてリニューアルしました。

	2022年度	2023年度
1	学び舎を作る	音楽で地域交流「Grandioso」
2	犬＆飼い主交流	環境意識を啓発「エンバメ」
3	中野駅を明るく	学校・学年を超えて校則を考える 「Enjoy 楽しもう はっぴい☺」
4	区外の人にも自慢できる中野に	中高生の居場所づくり
5	子どもから大人まで自由に話せる場 みんなの語りBAR	地域の関係づくり 「おとなりつながり」
6	中野の交通マナー	地域の魅力発信「中野地理院」
7	中野の魅力発信	
8	中野のおいしいPVをつくる	

2022年度は「理想の中野」をテーマに、約20名の参加者たちが自分の「わくわく」を大切に、自由な発想でチャレンジを実施しました。

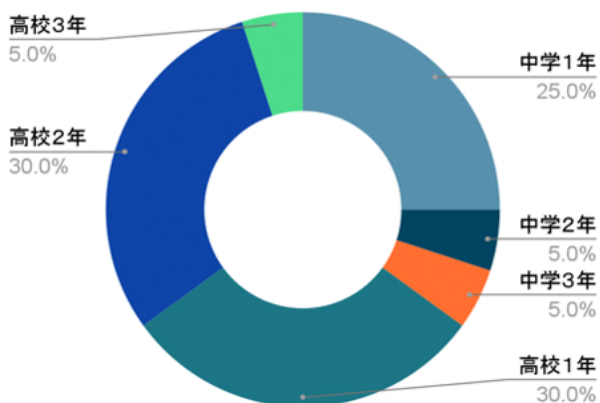
2023年度は「意見表明」の場であることに重点を置き、自分のやりたいことについて実際に取り組むことによって、「自分の力で地域を変えることができる」という実感ができるようなプログラムを実施しました。



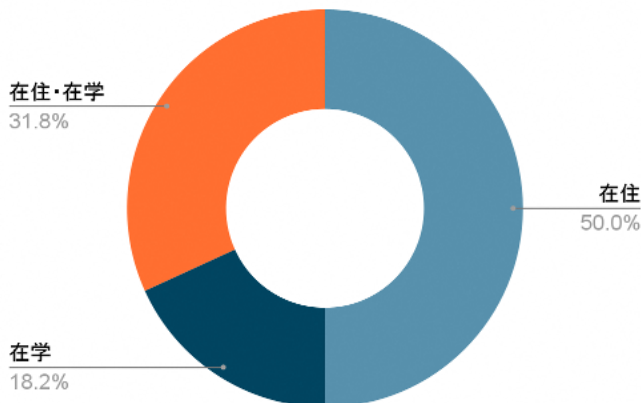
今年度の参加者概要

今年度は区内在住・在学の中高生計20名がハイティーン会議のメンバーとして参加し、うち中学生が7名、高校生が13名でした。また、学校種別では国公立校から8名、私立高から12名が参加し、学年や在住・在学の割合は図の通りとなっています。

学年の内訳



中野区在住/在学の割合



加えて、区立中学校や区内の私立中学校計5校から27人の生徒会メンバーが協力して生徒会チャレンジに取り組み、総勢47名の中高生でハイティーン会議を作り上げました。

生徒会チャレンジの参加校

- 区立第五中学校
- 区立緑野中学校
- 区立南中野中学校
- 区立明和中学校
- 明治大学附属中野中学校

広報用のチラシ、ポスターは2024年5月に移転した中野区役所新庁舎で撮影を行い、2023年度の参加者がモデルとして参加してくれました。



今年度の活動概要

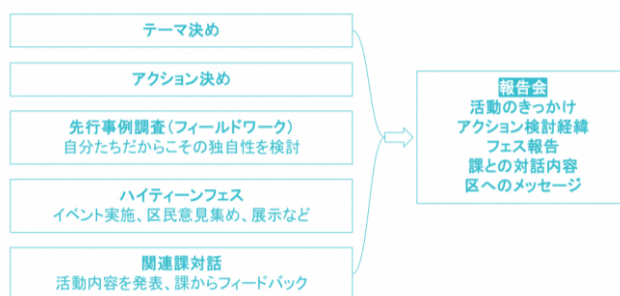
プログラムの流れ

ハイティーン会議では、興味・関心が近い中高生でチームを作り、7月から11月のプログラム期間内に「チャレンジ」と呼ばれるプロジェクト活動を行います。

活動の内容や方向性は、月1～2回のプログラム日において各チャレンジのメンバーで話し合いながら定めアクションや意見表明に向けて準備を行うほか、LINEオープンチャットやオンライン会議サービスを使った打ち合わせや進捗の確認なども行います。

チャレンジによってはプログラム日程以外に自主的に集まって活動を行うこともあります。

ハイティーン会議の流れ



■ハイティーン会議・若者会議の年間スケジュール■

	ハイティーン会議		(参考) 若者会議		全体の流れ
7月14日 (日)	第1回	10:00～13:00	第1回	14:00～17:00	キックオフ
7月28日 (日)	第2回	10:00～13:00	第2回	14:00～17:00	チャレンジ決定
8月18日 (日)	第3回	10:00～13:00	第3回	14:00～17:00	フィールドワーク
9月15日 (日)	第4回	10:00～13:00	第4回	14:00～17:00	アクション準備
9月29日 (日)	課外	14:00～			中高生の居場所イベント
10月20日 (日)	第5回	10:00～17:00	第5回	10:00～17:00	アクションDAY
11月9日 (土)			課外	9:00～	環境イベント
11月10日 (日)	第6回	10:00～13:00			関連課ヒアリング
11月16日 (土)			課外	9:00～	多文化イベント
11月24日 (日)	報告会	14:00～17:00	第6回	10:00～17:00	意見表明
12月15日 (日)	見学	13:00～17:00	報告会	13:00～17:00	若者会議報告会見学

意見表明に向けたアクション「中野ハイティーンフェス」

中野ハイティーン会議は、テーマについて話し合ったり調べたりするだけでなく、フィールドワークやインタビューを通じてまちの課題を発見し、より良いまちづくりに向けたアクションを実践することを重視しています。

今年度は、「中高生のアクションで、中野のファンを増やす」というテーマのもと、全てのチャレンジが一斉にアクションを行うイベント「中野ハイティーンフェス」をプログラム内に設け、まちの課題と併せてアクションのターゲットを定めて実践。これを踏まえ、報告会ではより具体的な施策の提案を行いました。

ハイティーン会議参加者を支える「メンター」

ハイティーン会議では、各チャレンジ専属のメンターを配置し参加者の活動を伴走しています。参加者一人一人の興味関心や取り組みへの意欲を捉えながら、チャレンジの活動が円滑に進むようアイデアを引き出すサポートなどを実施します。

メンター同士でも各チャレンジの情報共有を行い、活動に結びつきそうな地域の情報や人の紹介などを積極的に実施して中高生のチャレンジを発展させました。



さらに、チャレンジによっては同日開催となった中野若者会議の参加者がサポーターとして連携・協働する場面も見られました。

各回実施内容

DAY1 7月14日 10:00～13:00

キックオフ・チャレンジ検討

1 アイスブレイク

自己紹介をしながらビンゴのマスを埋めるゲームや、新聞紙を使ってできるだけ高いタワーを作るゲームを通じて初めて会う仲間と打ち解け合いました。

2 チャレンジテーマのブレインストーミング

昨年度のチャレンジテーマについてどのように発展させられそうか、自分の興味と被る部分はあるかなど、ブレインストーミングを行いました。

昨年度のハイティーン会議メンバーから、チャレンジで取り組んだテーマやアクションの内容などについての説明を受け、イメージを膨らませました。



また、昨年度は実施していない新チャレンジについても自由に意見交換を行い、昨年も実施した3つのチャレンジに加えて「政治参画チャレンジ」が立ち上がりました。

さらに、区立中の生徒会メンバーを中心とした「生徒会チャレンジ」も立ち上がり、最終的に5つのチャレンジが出揃いました。

それぞれのチャレンジの活動内容は、第二章で詳しくお伝えします。

3 懇親会（任意参加）

終了後は、希望者で懇親会を行い、昼食やカードゲームを通じて仲を深めました。

DAY2 7月28日 10:00～13:00

チャレンジ決定・課題設定

前回のブレインストーミングで出た内容と、自分の興味・関心とを照らし合わせ、どのチャレンジで活動するかを決定しました。その後、どのような活動を通じて何を実現するかについて各チャレンジで話し合いを行いました。



最後には全体で発表を行い、「中野のファンを増やす」という共通のゴールに対して各チャレンジから多様なアクションの候補が提案されました。



DAY3 8月18日 10:00～13:00

フィールドワーク・ゲストヒアリング

各チャレンジで設定したアクションや意見表明の方向性に沿って、その分野に詳しいゲストをお呼びしてヒアリングを行いました。

また、中野区やその周辺の地域で行われた事例を実際に訪問し、自分のチャレンジに活かせる知識や視点、方法がないかを探しました。



	チャレンジ	訪問先・ヒアリング先
1	居場所チャレンジ	TeensTownむさしの・ダガシヤシキ
2	交流チャレンジ	中野駅周辺にて街頭インタビュー
3	校則チャレンジ	区内高校生 小賀坂小春さん
4	政治参画チャレンジ	認定NPO法人カタリバ 古野香織さん
5	生徒会チャレンジ	生徒会会談代表 上野友誠さん

DAY4 9月15日 10:00～13:00

アクション準備

10月回の「中野ハイティーンフェス」において各チャレンジで実施するアクションの内容を考え、当日の流れや資料などの準備を協力して行いました。

これまでの活動を振り返り、区長への報告を見据えながら話し合いを重ねて、どのようにしたら成功するかを検討しました。

また、中野ハイティーンフェスを実施する会場の下見も2つのグループに分かれて行い、当日の動きや装飾などのイメージを膨らませました。



DAY5 10月20日 10:00～17:00

中野ハイティーンフェス

中野ハイティーンフェスでは各チャレンジがブースを出展し、それぞれのテーマに沿ったアクションを行いました。当日は区内外の小中高生から大人までの様々な人が参加し、50人を超える人で会場が賑わいました。

■交流チャレンジ企画 「誰でも青春祭り」

年齢・国籍・障害の有無などに関係なく、いろいろな人が楽しく交流できる縁日イベントを開催しました。スーパーボールすくい・折り紙・カードゲームなどのコーナーを用意し、参加者だけでなく他のチャレンジの中高生とも広く交流することができました。

■校則チャレンジ企画

「Do we need rules? Do schools need rules?」

異なる立場・視点からの意見をもとに校則について捉え直し、「理想の校則」についてフラットに語り合うイベントを行いました。前編と後編に分けて実施し、ルールメイキングに取り組む地域の大人からお話を聞いた後、それをもとに参加者と対話を行い、それぞれの立場や年代からの意見がでて盛り上がりました。



■居場所チャレンジ企画

「フリースペースなかの」

雑談やボードゲーム、クッキー作りなどを通じて、地域とつながるきっかけになる中高生の居場所の運営を行いました。中野に関する情報交換を行う仕掛けを実施したほか、中野区内で長く活動されているゲストを呼んで中高生との交流も行いました。

■生徒会チャレンジ企画

「模擬生徒交流会」

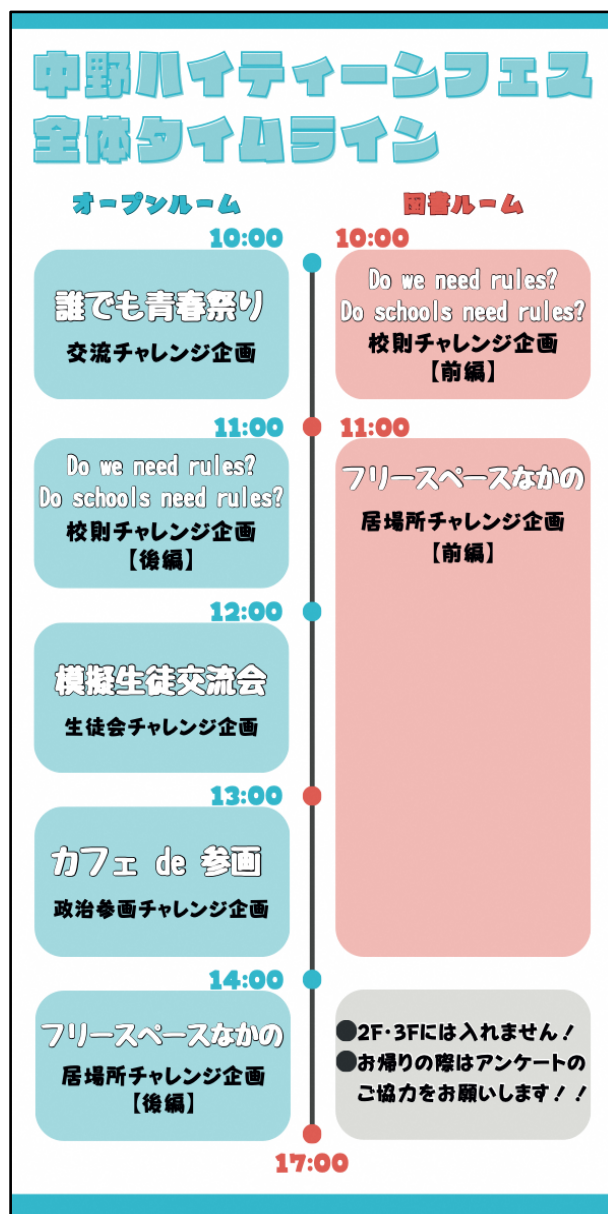
区立中の生徒会役員が集まって意見交換をする「生徒交流会」をより良いものにするために考えたアイデアを実際に検証しました。「生徒会の理想の在り方」をテーマに、生徒会役員ではない中高生も一緒に意見を出し合いました。

■政治参画チャレンジ企画

「カフェ de 参画」

若い世代に政治への興味を持ってもらうため、政治のことがよくわからない人でも気軽に話せるカフェを実施しました。

架空の候補者と政策を3つ用意し参加者同士で話し合ったのち、実際の投票箱を使用して模擬投票を行いました。



DAY6 11月10日 10:00～13:00

関連課ヒアリング・報告会準備

当初各チャレンジで目指したゴールやこれまでの活動、中野ハイティーンフェスでのアクションの成果を改めて振り返り、各チャレンジテーマに関わる区役所の関連課の方と対話を行いました。ハイティーン会議メンバーと区の職員がそれぞれの実践や施策の共有を行い、どのような取り組みを行えば課題を解決することができるかについて考えました。また、それらの情報を整理し、区長への意見表明の内容や資料の準備をしました。



DAY7 11月24日 14:00～17:00

報告会

区長や教育長、区役所関係各課に対して、約4ヶ月間にわたって実施してきたチャレンジの活動の成果やテーマに関する意見表明を行いました。

■最終準備（10:00～14:00）

任意参加で、本番に向けて直前の準備時間を設けました。伝わりやすい発表資料にするための調整や役割の最終確認を行い、時間を測りながら発表練習もしました。



■報告会 （14:00～17:00）

報告会は、以下の流れで行いました。

▶各チャレンジによる活動報告・意見表明

ハイティーン会議メンバーは、チャレンジ活動の内容や、活動を経て考えた意見を約6分間の発表にまとめました。関連課職員や区長は発表を受けて、共感・納得した点についてのコメントや、中高生視点の意見を区政に取り入れるための質問などを行いました。

▶観覧者交流

発表を聞いた他チャレンジのメンバーや観覧者の方には、コメントシートに感想や意見を記入し発表したチャレンジのメンバーに直接手渡していただきました。質問や感想を直接伝えてくださる観覧者の方もあり、チャレンジテーマについて対話を行なっている場面も見られました。

▶座談会

子どもの権利や若者支援を専門とする青山鉄兵さん（文教大学准教授）がモデレーターを務め、区長とハイティーン会議メンバー5名による座談会を行いました。ハイティーン会議のプログラムや約4ヶ月間の地域活動の実践について率直な意見を交わし合い、これからのハイティーン会議やそれを通じた中野のまちのあり方について考えました。

■振り返り （17:00～18:00）

報告会后には、これまでのハイティーン会議の活動全体についてワークシートを使って振り返りました。その後、修了証を各チャレンジのメンターが授与しました。



②チャレンジ詳報

2024年度のハイティーン会議では、5つのテーマに分かれてチャレンジしました。この章では、それぞれの歩みを紹介します。

1. 中高生の居場所チャレンジ

地域における中高生の居場所には、どのような機能やイベントが求められるのでしょうか。中高生自身が複数のイベントを企画・実施し、仮説検証しました。

メンバー

おはな （高校3年生）

ゆづき （高校2年生）

らら （高校2年生）

はせこ （中学2年生）



チャレンジのきっかけ

2023年度も実施していた「中高生の居場所チャレンジ」の内容を見て、「自分たちもやってみたい!」と考えたメンバーが集まりました。今年度は、居場所を使ってどんな変化を生めるか?というソフト面の挑戦もポイントとなりました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/28	ハイティーン会議	チーム決め
8/1	Zoom打ち合わせ	フィールドワーク先を、子どもの居場所づくりに取り組んでいる先行事例「TeensTownむさしの」「ダガシヤシキ」に決定 イベント初回を9月、2回目を10月とするスケジュールを決定
8/18	ハイティーン会議	チャレンジメンバーの担当イベントと役割分担を決定 フィールドワークでヒアリングを実施
8/29	Zoom打ち合わせ	10月のイベントでおかしづくりをすること、地域の方を呼んで座談会をすること、豆知識交換所をすることを決定
9/2	Zoom打ち合わせ	9月イベントの内容を具体化

9/29	独自イベント	イベント「NAKANO文庫」実施
10/10	Zoom打ち合わせ	10月イベントの準備を確認。お菓子作りなどの試作状況を共有
10/20	ハイティーンフェス	イベント「フリースペースなかの」を実施
11/10	ハイティーン会議	育成活動推進課にヒアリング
11/24	報告会	

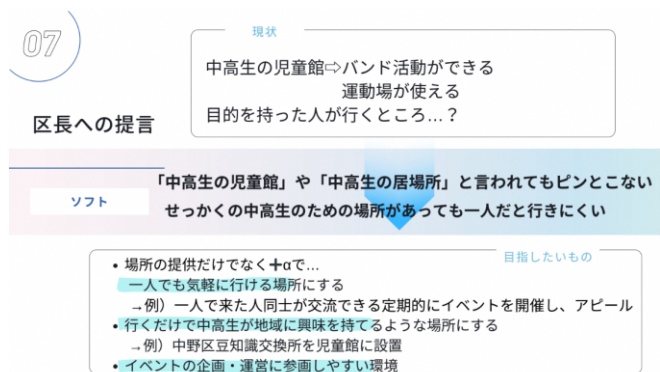
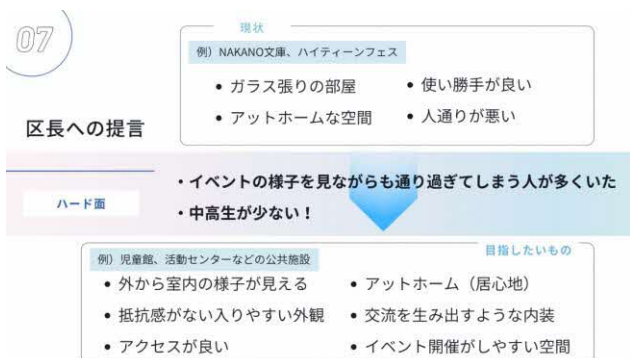
チャレンジのポイント

「一度だけの開催では居場所と言えないから、複数回イベントを実施しよう」と前向きな話し合いから活動がスタート。9月には図書をきっかけに人とつながる居場所イベント、10月には地域の人や魅力とつながる居場所イベントと、タイトなチャレンジ期間にもかかわらず2か月連続で中高生が集えるイベントを開催しました。



報告会での意見表明

独自イベントを開催したことによる学びを活かし、今後、区が中高生の居場所を整備していく際に、ハード・ソフト・情報発信の面から、それぞれ中高生にリーチしやすい形で実施するよう求めました。



関連課からのフィードバック ◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

意見表明の要旨	担当部 (担当課)	対応 方針	説明・理由
中高生にとって地域の居場所は、地域の魅力を知り、新たな友人を見つけられる場所であるとともに、中野とつながることができる居場所であってほしい。また、継続的に居場所の提供を行うことが必要で大事である。	子ども教育部 育成活動推進課	◎	区有施設等を会場に中高生が気軽に訪れ、自由に過ごすことのできるような居場所事業について、令和7年度より拡充し、開催日を増やして実施します。
今後、区で中高生施設を新たに整備する際に、以下が重要と考える。 【ハード面】 ・「抵抗感がない入りやすい外観」「入りやすいアットホームな雰囲気」「交流を促すような内装」「アクセスの良さ」が満たされたものとしてほしい。 ・区民の声を聴く機会を設けながら施設の検討を進めて欲しい。 ・この先何十年も使う施設になるため、地域の子どもが施設を気軽に使えるような働きかけも行なってほしい。	子ども教育部 育成活動推進課	○	中高生年代向け施設を整備する際には、当事者である中高生年代の意見も聴きながら検討を進めていきます。
【ソフト面】 ・一人でも施設に行きやすいプログラム、定期的なイベントを実施してほしい。 ・施設を訪れた中高生が地域に関心を持てるような工夫も取り入れてほしい。（児童館での中野豆知識交換所の設置など） ・中高生がイベントを企画・実施できる運営体制づくりを進めてほしい。	子ども教育部 育成活動推進課	○	中高生年代向け施設を整備する際には、当事者である中高生年代の意見も聴きながら、中高生が気軽に行くことができ、イベントの企画・実施などにも携わることができるような運営体制を検討していきます。
【情報発信面】 ・周知チラシの様式やデザインを一般的なものと差別化するなどして関心を促してほしい。 ・ハイティーン会議・中高生施設ともに、中高生に人気のあるInstagram・tiktokなどのSNSを導入し、継続的な情報発信を行ってほしい。	子ども教育部 育成活動推進課	○	情報発信面では、中高生へお知らせが行き届くよう工夫して継続的な発信を行っていきます。また、中高生年代がよく利用するSNSなどの媒体の活用について、検討していきます。

報告会の発表では、地域イベントにおける集客の難しさや目的がなくても集まれる居場所の必要性について共感の声が多く寄せられ、またイベント実施の工夫やコンテンツについても多くのコメントが寄せられました。

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート

※印象に残ったこと、ねぎらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ (該当するものに○)	記入者名: { }
居場所 / 政治参画	・ハイティーン会議参加者 ・参加者関係者 ・学校関係者 ・区役所関係者 ・地域関係者 ・一般区民 ・その他 ()
校則 / 生徒会 / 交流	

- ・目的がなくても行きたくなる居場所というのは大事なポイントだと思います。
- ・「良い所ガチャ」というアイデアはとても面白い。もっと様々なアイデアを出してもらいたいです。
- ・本という、アイデンティティに簡単につながる題材を通して交流の場を作るという非常に良いアイデアだと思います。
- ・あまりうまくいかなかったこともそこで終わらせず、そこから知識を得ていたのも尊敬します！

2. 交流チャレンジ

地域における多世代・多国籍の交流を生むために、中高生世代ができることは何なのか。街頭インタビューやイベント実施を通して学びを深めました。

メンバー

わかな	(高校2年生)
りん	(高校1年生)
さらさ	(中学1年生)
ゆまち	(高校1年生)
あやね	(高校2年生)
みりあ	(中学3年生)
こころ	(高校1年生)
やのちゃん	(高校1年生)



チャレンジのきっかけ

多世代交流を目指すチームと、国際交流を目指すチームが話し合いの上で一つのチームとして活動することになりました。学校以外の人と接する機会が少ないからこそ、国籍や世代の異なる人と交流し、いろいろな価値観に触れたい！という思いが軸となっています。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/28	ハイティーン会議	チャレンジ全体のめざす方向性の確認、アクション検討
8/6	Zoom打ち合わせ	インタビュー、アンケート内容について検討 公共施設などで広く一般の人などを対象に、「インクルーシブな交流をしたいかどうか、なぜ交流したいか、どのような場なら交流したいと思うか」などをヒアリングすることに決定
8/18	ハイティーン会議	作成したアンケートを用いて街頭インタビューを実施
8/25	中野秘密基地「たぬどん食堂」訪問	メンバーのうち5名が「中野秘密基地」で開催されている多文化共生子ども食堂「たぬどん食堂」に参加、見学
9/15	ハイティーン会議	アクションDAYで実施する「交流イベント」について、具体的な企画内容や集客方法を検討。

		①中高生、大人や外国人も楽しめるよう、縁日企画をメインにする ②国際交流に向け、世界の料理を紹介するカードをつくって提供する などを決定
10/9	Zoom打ち合わせ	イベント当日のタイムテーブルや細かな設計、担当するブースなどの役割分担や必要物品の準備
10/20	ハイティーンフェス	中高生自身で「誰でも青春祭り」を運営、メンバー以外では20人程度が参加
11/10	ハイティーン会議	文化振興・多文化共生推進課へのヒアリングを実施 区が実施する外国人向けの取り組みについて説明を受ける
11/12, 19	Zoom打ち合わせ	報告会準備
11/24	報告会	

チャレンジのポイント

自分たちなりの交流の場を実践するべく、地域に足を運び街の人の声や民間団体の活動からヒントを得ました。

イベント当日は、「交流」を前面に出すのではなく、一緒に何かをしながら楽しく時間を過ごすことで自然と交流が生まれることを意識し、盛り上がりを実現しました。

アクションを決めるまで

一般の方がイメージする交流ってなんだろう？

〈行ったこと〉

アンケート

- 主に年代から結果がとれた
- 交流したいが聞くとしたくない方が多かった
- 交流したい人向けに交流の場を増やすことにフォーカス！



たぬどん食堂（交流のコツを学ぶ）

- 同じ場所で幅広い年齢層の方が一緒に作業
- 多世代、多国籍の人の交流が実現



報告会での意見表明

区内での多世代・多国籍交流を促進するために、すでに地域で活動する民間団体のネットワークを活用する必要性を発表しました。単発のイベントだけでなく、コミュニティ自体の強化が重要とも伝えました。



区長に提言

・民間団体への補助金提供

中野区は民間団体よりも資金が豊富であるため、民間団体に対して補助金を提供することで、交流活動をより効果的に推進できると思う。
区だけで新しいイベントを始めるより、もともとコミュニティを持っていすでに交流イベントに慣れている団体と協力することで、スムーズに運営できる。

・交流活動の活性化

交流イベントを活発に行うことで、コミュニティ内のつながりが強まる＝地域の人々の参加意欲が高まり、参加のハードルを下げるができる。
例えば、定期的なイベントやフェスティバルを開催することで、参加者が気軽に集まれる機会を増やすことなどが考えられます。場所や内容も、知り合い同士で誘い合って行きたくなるようなものだといく多くの参加が期待できると考えます。

区長に提言

・情報発信の強化

すでに行われている交流の活動も、参加したい人にうまく届くような情報発信ができるとよいのではないかと。たとえば学校やSNSなど、大規模にターゲットに届く発信のしかたが考えられる。

・海外の方への対応の強化

海外の方々と一緒に、より良い対応方法を考えることが重要です。例えば、外国語対応や文化理解を深めることで、地域の多様性を受け入れやすくなるのではないかと。

アンケートなどを通じて、海外の方々がどのような交流活動を望んでいるかを把握し、それに基づいて対応を改善。
中野区内で海外の方々と対象にしたアンケートを実施し、彼らのニーズや意見を反映させることで少しでも変化が起きるのではないかと。

関連課からのフィードバック

◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

意見表明の要旨	担当部 (担当課)	対応 方針	説明・理由
中野区には多国籍・多世代の人が住んでいるが、中高生の立場からすると、学校以外の交流の場が少ないと感じている。多様な人と交流することで、様々な価値観を知るとともに、地域で助け合える関係性を築きたい。	区民部 文化振興・ 多文化共生 推進課	○	外国人と地域住民との交流機 会の創出を推進していきま す。
区は、地域住民にアンケート等を行い、外国人住民が「どんな交流を望んでいるか」「望んでいないとすれば、なぜか」等の実態把握をするべき。特に外国人住民については、把握した意見をもとに、外国語対応の充実や文化理解の促進など、交流のために必要な対応を検討・改善してほしい。	区民部 文化振興・ 多文化共生 推進課	○	令和6年度に実施した「外国 人と区長のタウンミーティン グ」でも外国人住民の意見を 聴きました。今後も機会を捉 えて外国人住民の意見の把握 を行い、施策に生かしていき ます。
区は、区だけで新たなイベントを立ち上げるよりもすでに交流に関する実績・ノウハウやコミュニティを持っている地域団体のリソースを最大限活用し、地域住民の交流を促進してほしい。また、民間団体に補助金を出したりネットワークを形成したりするなど連携を強化してほしい。	区民部 文化振興・ 多文化共生 推進課	○	地域団体との連携の強化に努 めるとともに、「区民公益活 動に関する助成（政策助 成）」等の助成制度を適切に 案内していきます。
(同上)	地域支えあい 推進部 地域活動推進 課	○	民間団体を対象とした補助金 については、他自治体を参考 に研究していきます。

交流活動を活性化するには、参加ハードルを下げる工夫が必要。単発ではなく定期的なイベントやフェスティバルを開催するなど、気軽に集まれる機会を増やし、会場や内容についても知り合い同士で誘い合って行きたくなるものとしてほしい。また、交流イベントを行う際には、学校などを通じた発信やSNSの活用など、参加したい人にしっかり情報が行き渡るよう、より多くのターゲットに情報が届く発信の工夫をしてほしい。	区民部 文化振興・ 多文化共生 推進課	○	区が補助金を支出している中野区交際交流協会では定期的にイベントを実施しています。イベントの会場や内容、周知方法について、区も関わりながら充実や改善を図っていきます。
(同上)	地域支えあい 推進部 地域活動推進 課	●	地域活動推進課では、地域の公益活動団体、地域住民の交流を促すため、令和7年1月24日に第一回「なかの地域活動フェスティバル」を開催しました。

いただいたコメント

報告会の発表では、多文化・多国籍の人との交流に視点を置いて多様な価値観を尊重しながらチャレンジを進めた点について、多くのコメントが寄せられました。

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所 / 政治参画

校則 / 生徒会 / 交流

記入者名： 1

- ・ハイティーン会議参加者
- ・参加者関係者
- ・学校関係者
- ・区役所関係者
- ・地域関係者
- ・一般区民
- ・その他（ ）

最近日本以外の方も本当に多く中野区に住んでいるらしいです。皆さんが大人になられる時には更に多くの外国人の方の中野区在住者だと思います。交流というテーマは大切だと思っています。中高生になると親が許可をしないと機会も減ります。色んな交流できる場があるといいと思います。

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所 / 政治参画

校則 / 生徒会 / 交流

記入者名： 1

- ・ハイティーン会議参加者
- ・参加者関係者
- ・学校関係者
- ・区役所関係者
- ・地域関係者
- ・一般区民
- ・その他（ ）

事前に「な流」についてアンケートされたのが、あざらしいと感じました。多世代・多様な人々でな流って言うのは簡単ですが、難しいですよね。でも二枚からの日本に必ず求められ、やりなさいといふことだと思えます。課題の気がしますが、あざらしいと思いました。中野区もそんなイベントがもういっしょにやってくれるといいと思います。課題をしっかりとめきき、それをまわしてあげることをしようです。

【以下抜粋】

- ・自分たちの仮説とアンケート結果にギャップがあっても、視点を絞って取り組み続けたことがすてきでした！
- ・アクションの準備・実施は、ハイティーンの方々の考えとは思えない、しっかりした枠組みに感心しました。大人も共に一緒に考えて活動しなければなりません。

3. 校則チャレンジ

学校生活における校則の在り方は、生徒と大人のそれぞれが対話を重ね、納得解を作り出す必要があります。2023年度の校則チャレンジで学校・学年を超えた生徒たちによる話し合いを実現したことを踏まえ、2024年度は「大人も交えた対話の場をつくる」ことに挑戦しました。

メンバー

ミスビーン（高校1年生）

ゆうな（中学1年生）

しゅんた（中学1年生）

かのん（中学1年生）



チャレンジのきっかけ

「校則にある『中学生らしい格好』ってどんな格好？」など、校則への疑問からスタートした校則チャレンジ。そうした疑問を先生や大人と一緒に考え、校則について語り合い、見直していくことを目標として活動を行いました。

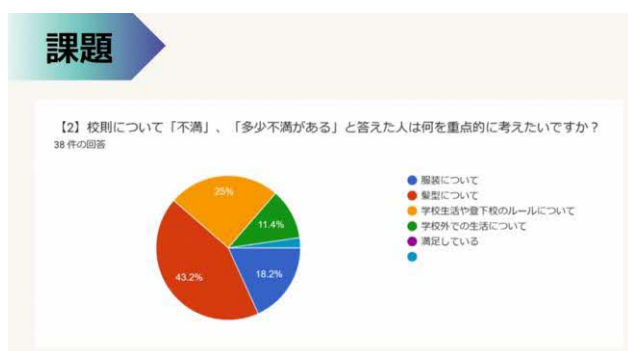
アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/28	ハイティーン会議	校則について感じていることの共有、アクション方向性の話し合い
8/10	Zoom打ち合わせ	各メンバーが通う学校の校則と、その中で気になる点についてそれぞれ事前に検討し、共有 「服装や髪型」、「学校外での行動」についての規定への意見が多く集まった。これを踏まえ、ヒアリングしてみたい有識者や対話に招く大人を誰にするか、検討
8/18	ハイティーン会議	実際に高校で校則見直しに取り組んできた高校生をゲストに招き、活動の内容やポイントをヒアリング
8/26	Zoom打ち合わせ	「校則に不満があるか」「どのような点に不満か」「どう変えていくべきか」などのWEBアンケートの作成、中高生世代約50人から回収 イベント当日の対話テーマを検討

9/15	ハイティーン会議	イベント当日の内容、進行案を作成 運営メンバーの役割分担を決定
10/20	ハイティーンフェス	教育委員会事務局指導室、校則見直し活動に取り組むNPO職員、 高校教員を交えてのディベート・対話イベント実施
11/10	ハイティーン会議	教育委員会事務局指導室にヒアリング 報告会に向けて検討（実現してほしいこと、区政への意見）
11/24	報告会	

チャレンジのポイント

中高生全体の意見を知るためにWeb上でアンケートを行ったり、校則を変えた経験のある人に話を聞いたり、フラットで公正な対話の実現に向けて努力しました。「大人に中高生の意見をぶつける」よりも、「大人も中高生も同じ立場で対話したい」という方向性を早期に固めたことで、多様な参加者が意見を交わし合うことができました。



報告会での意見表明

校則は時代や場面に合わせ、また個人の事情や体調に配慮しながら柔軟に変えたり見直しをしていくことが大切だと感じました。そのために、もっと気軽に先生と校則について話したり、見直しのためのルールを作ったりするほか、校則を試行的に変更する「お試し期間」を作るアイデアを提案しました。



中野区に対する意見

個性と生徒の体調が考慮された校則を作りたい！

体育の授業の後にタブリエを着る校則を無くしたり、性別を問わず、スラックスとスカートを着て良い事にするなど

校則を見直す期間を設けてほしい！

校則を変えるきっかけを作ってほしい！

校則を一時的に変更する「お試し期間」を作る

校則作りに生徒も参加したい！

みんなが納得して守ることができる校則づくりの実現

関連課からのフィードバック

◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

意見表明の要旨	担当部 (担当課)	対応 方針	説明・理由
・前提として、一人ひとりの個性や体調が尊重される校則であるべき。 そのために、一定期間で校則を見直すことをルール化してほしい。 ・既存の校則を完全に变える・無くすのではなく、一時的に変更する「お試し期間」を設けて、どのように運用できるかを検証するなど、校則を变えるきっかけを作してほしい。 ・誰もが過ごしやすく納得できる校則を作るために、生徒自身が校則づくりに参加できる仕組みを制度化してほしい。	教育委員会 事務局 指導室	○	令和6年度、校則チャレンジで提案された意見は区立学校の校長に周知しました。区立中学校では、生徒会等の活動や生徒アンケートなどを通して、生活の決まりについて意見を述べる場を設けて見直しを行っています。 例えば、靴下やセーター、コートなどの色について、生徒会での話し合いや生徒と教員との協議を通して決定しています。今後も提案された意見等を踏まえて、学校が考える教育的意義と誰もが過ごしやすく納得できる校則のあり方について、改めて生徒や保護者、地域に、保護者会や学校だよりを通して丁寧に説明していくよう助言していきます。

いただいたコメント

報告会の発表では、校則の見直しに生徒が参加することによって個性が考慮されるという点や、お試し期間を設けるという提案について多くのコメントが寄せられました。

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート

※印象に残ったこと、ぜひ、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ (該当するものに○)

居場所 / 政治参画

校則 / 生徒会 / 交流

記入者名:

- ・ハイティーン会議参加者
- ・参加者関係者
- ・学校関係者
- ・区役所関係者
- ・地域関係者
- 一般区民
- ・その他 ()

校則は誰のためにあるのか、その必要生や大切さは
 何のために、
 その時点では十分に感じ取れるのか難しいことだと思います
 校則は正に時代の中で生きていくために有効なもの
 なの
 したいですね 「一歩を踏み出す」これを人生の柱の一つにして
 タブリエの必要性: 何でしめ
 くだること
 希望します

[illegible]

【以下抜粋】

- ・「時代とともに生徒で議論していくことが大事」は、まさにその通り。
- ・校則をなくすのではなく変えるという極論ではない考え方、お試し期間など柔軟な発想がよいと思いました。

4. 生徒会チャレンジ

生徒会活動は学校ごとに異なりますが、同じ視点を持つ生徒会メンバーが集まり状況と課題意識を共有しながら、理想の学校を作るためのチャレンジに取り組みました。

メンバー

区立第五中学校	4名
区立緑野中学校	6名
区立南中野中学校	6名
区立明和中学校	3名
明治大学附属中野中学校	8名



チャレンジのきっかけ

区立中学校4校と区内の私立中学校1校から代表生徒が参加することで立ち上がりました。他校の生徒会仲間が集まることに大きな意義を感じ、区立中の生徒会役員を対象に毎年開催されている「生徒会交流会」をより良くすることを軸に決めました。

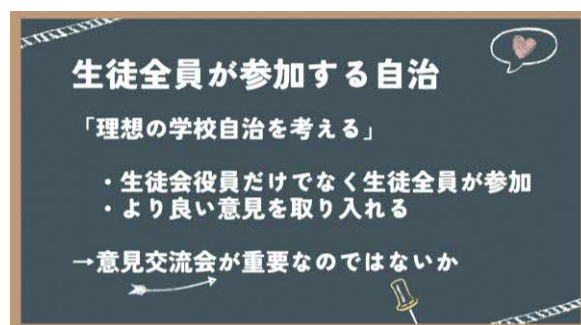
アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/28	ハイティーン会議	各学校の情報や生徒会の活動について他のメンバーと共有し、「いい生徒会」について意見交換
8/18	ハイティーン会議	生徒会役員が学校を超えて集まり話し合いをするイベントを企画している高校生の上野友誠さんにヒアリング 生徒会交流会を良くするための意見表明を行うという方針を決める
9/15	ハイティーン会議	現状の生徒会交流会の良い点と課題点を整理し、課題の改善策を検討
10/20	ハイティーンフェス	模擬生徒会交流会を実施し、改善策を実証
11/10	ハイティーン会議	教育委員会事務局指導室へのヒアリングを実施 これまでの取り組みを整理し報告会の意見表明に向けた準備を実施
11/24	報告会	

チャレンジのポイント

ヒアリングやハイティーン会議そのものを通じて感じた生徒会同士の交流の重要性を、すでに行っている活動に結びつけて検討しました。

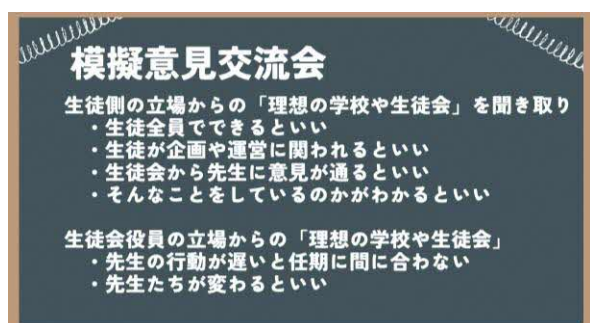
生徒会役員によるチャレンジでしたが、役員に限らず生徒全員を巻き込むことが理想の学校自治には必要だと捉え、ハイティーンフェスでの模擬生徒会交流会でも多様な中高生を巻き込んで交流していました。



報告会での意見表明

理想の学校を作るための生徒会交流会に向け、生徒会役員に限らない生徒参加の必要性や、フラットな場にするために生徒自身がつくること、区立中だけでなく地域の私立中の生徒会も巻き込むことなどを提案しました。

また、生徒会活動には教員との連携や協力が欠かせないことから、生徒だけではなく教員も学校を超えて話し合うことや、生徒会の任期が短く行動しても実現しないこともあるため、教員のスピード感ある変化を求める声も聞かれました。



関連課からのフィードバック ◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

意見表明の要旨	担当部 (担当課)	対応 方針	説明・理由
従来の生徒会意見交流会は形式的な活動報告となっており、新たなアイデアや活動が生まれにくい。 生徒会役員だけでなく、様々な生徒も参加でき、カジュアルな雰囲気です学校のあり方を話し合える場を作りたい。	教育委員会 事務局 指導室	○	令和6年度、区立学校には、「子どもの意見を反映させた教育活動」を推進させるため中学校1校30万円、小学校1校20万円の予算を付け、招きたい講師を子どもたちが考え、活動を実施してきました。このことをきっかけとして、毎年行われている生徒会意見交流会の中で、各校の企画や運営の方法、取組の成果や課題などを共有し自校での取組に生かすことを通して、子どもたちが考える学校づくりにつなげていけるのではないかと考えています。
生徒会が担当する取り組みに対し、生徒会の任期に間に合うよう、生徒側だけでなく教員側もスピード感を持って対応してほしい。 また、生徒だけでなく、各校の教員同士でも校内の仕組みを話し合える場を作るべき。	教育委員会 事務局 指導室	○	教員研修においても、「子どもの意見を反映させた教育活動」について、教員同士が協議する場を設けていきます。

いただいたコメント

報告会の発表では、生徒会役員の視点から全ての生徒や教員を巻き込んだ「理想の学校」作りを目指したことについて、多くのコメントが寄せられていました。

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所 / 政治参画

校則 / 生徒会 / 交流

記入者名： 上

ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・区役所関係者
・地域関係者
・一般区民
・その他（ ）

生徒会の人たちは頑張っている!! と思いました。
先生たちの固定観念や行動に動きを促すことの難しさを感じ、
というスピーチが印象に残りました。
公立・私立などで話し合うことも必要と感じました。

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所 / 政治参画

校則 / 生徒会 / 交流

記入者名： 上

ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・区役所関係者
・地域関係者
・一般区民
・その他（ ）

理想の学校自治を追求していく観点が素晴らしいと思いました。
他の学校の生徒会の人たちと意見を交換させて、やっばり環境していく
場を作り、作りだすにはその中でより有意義にしようとする
取組が、理想を創ることに本当につながると思います。
詰まるどころ、その意見を具現化する先生たちが、よく考え、速く結果を
出してもらいたいという要望がかなえられればいいと思います。

【以下抜粋】

- ・当事者として意見交流会の改善を求めることは大きな意味があったと思います。
- ・7月から継続的に生徒会役員の交流を行ったことにとっても意義があったと思う。
- ・全ての生徒の参加、自分たちが変えられる経験、先生方の対話の提案など、皆さまのアイデアや仕組みづくりが教育現場や地域社会を変えていける!!と感じました。
- ・中学は3年で卒業なので、“こうなりたい!こうしたい!”の方向を年代が変わっても維持し続けるのが大切ですね。
- ・交流や意見交換の重要性に気づき、教員間の意見の違いも共有した上で、改善したいとまとめたことが素晴らしいと思いました。

5. 政治参画チャレンジ

若者の投票率の低さを課題と設定し、政治に関心がない人でも気軽に参加できる対話の場づくりを目指しました。カフェ＋模擬投票のスタイルで、政治を身近に感じてもらえる工夫をしました。

メンバー

あゆな （高校2年生）
 よしか （高校2年生）
 ちっち （中学1年生）
 ほっしー （高校1年生）



チャレンジのきっかけ

「政治に関心があっても、気軽に話せる場が少ない」「学校で政治について考える機会があまり無い」といった共通の課題意識でメンバーが集まりました。「誰もが政治を身近に感じ、意見を交わしやすい場をつくる」ことを目標に、活動が始まりました。



アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/28	ハイティーン会議	「政治に関心がある人だけでなく、興味がない人にも政治を身近に感じてもらう」方向性を決定
8/18	ハイティーン会議	若者の投票率向上活動を展開する古野香織さんにヒアリング
9/15	ハイティーン会議	政治についてゆるく語り合うカフェイベントと、架空の選挙候補者を作り模擬投票を両立するアクションに決定
10/20	ハイティーンフェス	架空の候補者を3人作り、模擬投票を題材にカフェ形式で好みの政策を話し合うイベントを実施 中野区選挙管理委員会から、実際の選挙で使用する投票箱や記載台を借りることを実現
11/10	ハイティーン会議	中野区選挙管理委員会事務局に対し、投票率向上に向けた取り組みの内容をヒアリング
11/24	報告会	

チャレンジのポイント

「政治に興味がある」と言うだけで“意識高い系”と思われる、話しにくい空気があることが課題でした。そこで、リラックスした雰囲気重視し、誰でも気軽に会話に加われるような工夫をしました。



報告会での意見表明

選挙管理委員会事務局や投票率向上に取り組む方にヒアリングを実施したところ、学校で模擬投票を実施しているものの認知度が低く、参加したことがない人が多いことがわかりました。アクションを通じて学んだ「投票に興味を持つきっかけ作り」の重要性と、親しみやすさを作るポイントを発表しました。



関連課からのフィードバック ◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

意見表明の要旨	担当部 (担当課)	対応 方針	説明・理由
自分たちの「カフェde参画」イベント参加者へのアンケート結果では、政治への興味は100点中で50～70点ほどの回答が多く、決して低くないことが示された。 一方で、政治に興味があるがそれを切り出せないという現状があり、「政治についてよく分からない人も気軽に直接話せる場で、模擬投票を通じて、政治や選挙について考える楽しさを知った」という声もあった。こうした政治について語れるカフェイベントが今後も開かれてほしい。	選挙管理委員会事務局	○	現在、中野区選挙管理委員会事務局では若年層への啓発事業として、区内の小学校・中学校・高校等を対象に、選挙資機材の貸し出しや模擬選挙、ポスターコンクール等を行っています。 また、令和5年度より民間事業者と連携した出前授業も新たに開始しました。 今後、さらに民間事業者やNPOと連携し、提案いただいたイベントの趣旨を踏まえ啓発事業を検討していきます。

中高生年代が、区長など区政に関わる人の「生の声」を聞ける場をもっと増やしてほしい。	企画部 広聴・広報課	○	令和6年12月、「将来の中野のまち」をテーマに、小中高生を対象とした区民と区長のタウンミーティングを実施し、多くの中高生年代の意見を聞くことができました。 令和7年度は、小中学生を対象としたタウンミーティングを複数回行う予定です。これにより子どもの意見を区政に反映させるとともに、区政に関心を持つ機会を創出していきます。
--	-----------------------	----------	--

いただいたコメント

報告会の発表では、中高生が政治をテーマにチャレンジを行ったことについて驚きの声が多くあったと同時に、政治についてゆるく話せる場の必要性について多くの共感と応援のコメントが寄せられました。

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所 / 政治参画

校則 / 生徒会 / 交流

記入者名：「
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・区役所関係者
・地域関係者
・一般区民
・その他（ ）

ハイティーン会議の報告、素晴らしいです！自分たちの視点で問題を捉え解決策を考へる姿勢に感動しました。
この場でも積極的に意見を出し合い地域をより良くしていくことに励んでほしい！
中学生、高校生と生徒会が政治の縮図として民主的な意見決定と学びの場。その運営や議論を通じて、多様な意見を尊重し協働の重要性を体感出来る。また、リーダーシップが育まれ社会における自立した市民に成長出来ることを期待しています！

中野ハイティーン会議2024 報告会コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所 / 政治参画

校則 / 生徒会 / 交流

記入者名：「
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・区役所関係者
・地域関係者
・一般区民
・その他（ ）

70%の人が選挙に行く覚悟がある。覚悟はいい理由として、「投票が本人で決まらなければならない」という。Gotoに誘われる気持が、おもしろいと思えた。区民の人は政治について語り、積極的投票に誘われる。政治を情報として投票に誘われるという「おもしろい」が、おもしろい！！
最近では、政治について気軽に語り、公約の通り候補者が集まり、やり取りが話の場になり、各所としていいアイデアがでる。是非、中野区として、さらに拡大してほしい。
区民のアクションは、中学校の表現に誘われる。中学生が来ると一歩上りながら、報告、アイデアがでる。

【以下抜粋】

- ・「政治」と聞くだけでカたいイメージがあるので、ゆるーく語り合うという切り口で入っていったことは良いアイデアだと思います。
- ・気楽に、政治について話せる場がもっとあると良いですね。
- ・政治については正直わからないことだらけのため、「ディスカッション」というのは本当により取り組みだと思います。

③寄せられた感想

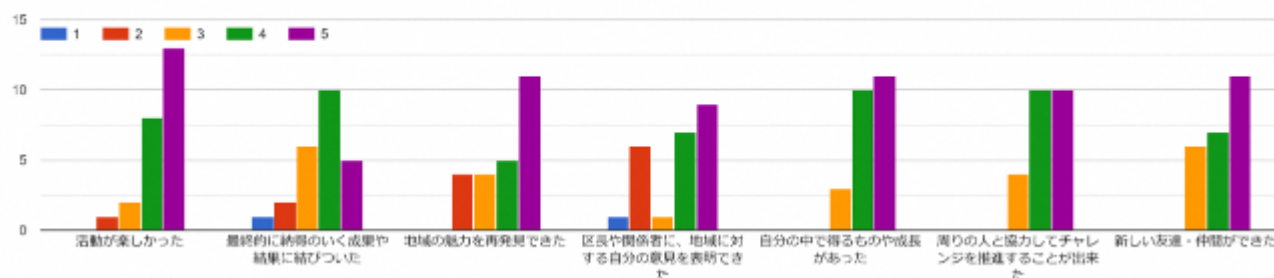
プログラムを終え、参加した中高生たちはワークシートを活用した振り返りや、プログラム全体に対するアンケートに臨みました。ここでは、寄せられた回答をもとに、2024年度のハイティーン会議に対する感想や評価を紹介します。

参加者アンケート

ハイティーン会議全体に対する平均満足度：8.93/10

※区に申し込みを行ったハイティーン会議メンバー20名の平均値

ハイティーン会議に対する気持ちを教えてください



自分が今まで感じていた不満・課題や、ハイティーン会議での活動を通じて感じたこと・考えたことをメンターや区長に伝えることができ、大人が真剣に聞いてくれたという点に肯定的な意見が多く寄せられました。

- ・初対面の人と話すいい機会になって楽しかった。
- ・様々な人と交流できたし大人たちが真剣に意見を受け止めてくれた。
- ・自分が今まで抱いていた不満や課題点を大人に伝えることができとても楽しく、スッキリした。

- ・年下だからという理由で遠慮したりせずに自分の思っていることを言えた。
- ・自分の本音とかを伝えられて、大人の人が、意外と耳を傾けてくれていることを知って嬉しかった。
- ・自分の気持ちとか本音を伝えられる場がたくさんあって嬉しかったです。
- ・メンターさんがとてもフレンドリーで話しやすくて楽しかった。自分の気持ちとか本音を伝えられる場がたくさんあって嬉しかった。

また、他の同年代の参加者との新たなつながりの創出や協働についても、新鮮で楽しかったという回答が多くみられました。

- ・同世代の子達とたくさん話して、自分たちの達成したいことに向かって活動できたのがとても良かった。
- ・普段話すことない他校の人と話せたので、様々な事を知れた。
- ・ハイティーン会議を通して、友達や話せる人が増えたのでいい機会だったと思った。

さらに、チャレンジで扱った内容や関連課との対話、区長・教育長への意見表明を通じて、まちづくりや政治への関心が上がったという声もみられました。

- ・区長に提言できて充実した時間になった。
- ・政治について考えるきっかけになれた。
- ・自分たちの思ったことを実現に近づけてくれたり、区政に反映させようとしてくれたり、すごく楽しかった。

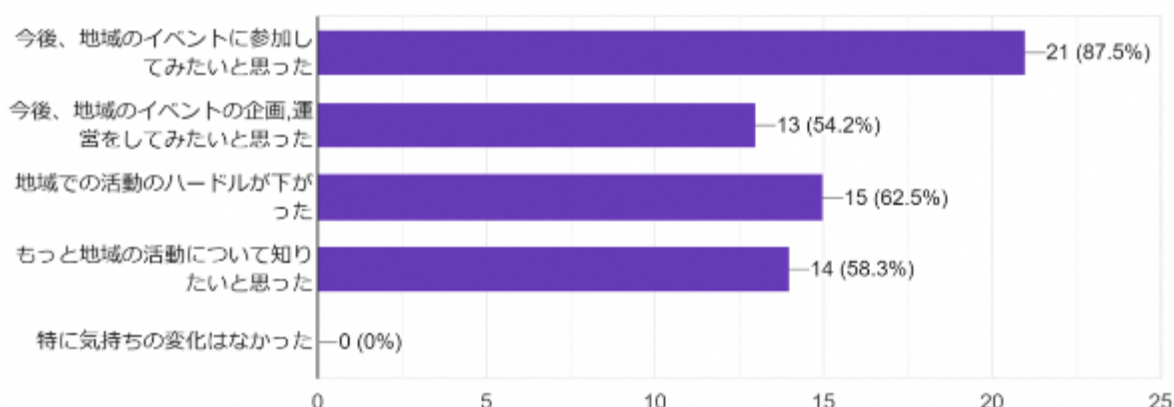
一方で、定例の活動日や報告会の日に他の予定が被ってしまったことで、参加できずに残念だったという声も寄せられました。多忙な中高生も継続した活動ができるハイティーン会議になるよう、改善してまいります。

- ・めっちゃ楽しかったけど色んな予定とかぶってあまり参加できなかった
- ・普段土曜日まで学校があって、日曜日に予定が入ることが多かったので、最後の方はあまり参加できなかったのが残念だった。
- ・最後、報告会に参加できなくて残念だった。

その他、項目ごとのアンケート結果の概要は以下のようになりました。

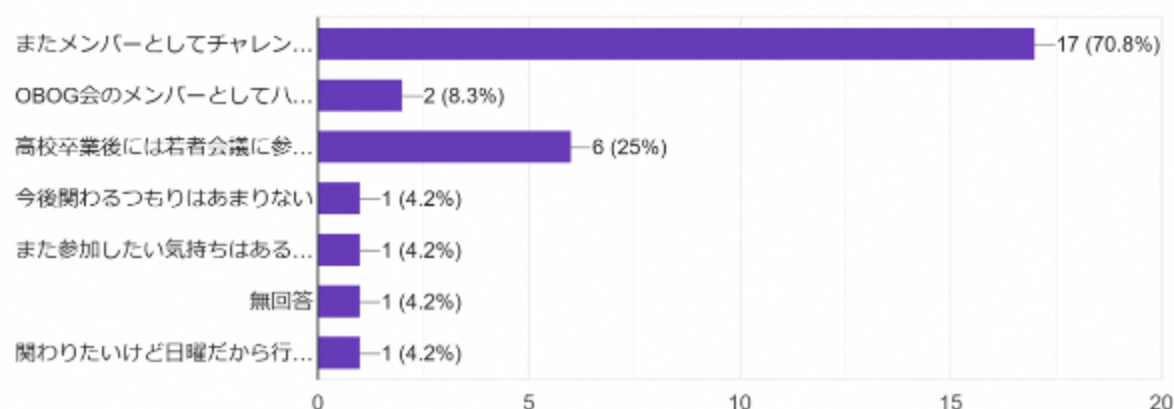
活動を通して、地域でのイベントや活動などへの気持ちの変化はありましたか？(複数回答可)

24件の回答



次年度以降、どのようにハイティーン会議に関わりたいと思いますか？(複数選択可)

24件の回答



※選択肢の全文は上から順に、以下

- ・またメンバーとしてチャレンジに取り組みたい
- ・OBOG会のメンバーとしてハイティーン会議をサポートしたい
- ・高校卒業後には若者会議に参加してみたい
- ・今後関わるつもりはあまりない
- ・また参加したい気持ちはあるのですが、日曜日だとちょっと難しいです。
- ・関わりたいけど日曜だから行けるか分からないです(泣)

参加者ワークシート

報告会後に行った振り返りワークでは、参加したメンバーが約4ヶ月の活動におけるそれぞれの学びや変化を言語化しました。

ハイティーン会議に参加した理由

中野区、地域に興味をもちたいから
自分が何をやるかについて考えてみたい。(参加者の声)

自己紹介 チェレンジを選んだ理由

自分の得意なことを活かして何か新しいことをしてみたい。

振り返り表

	アイデア出しで	ヒアリング・フィールドワークで	ハイティーン会議の準備や当日の運営で	報告会の準備で	ハイティーン会議の全体を通して
こと・手応えを感じたこと	今日のイベントを運営する「本」のイベント(MANABO)に良いアイデアを出せた。	みんなが何をしたいのか、何をしたいのかを聞いてみた。	いざやってみると、思ったより大変だった。でも、みんなの力を借りて乗り越えた。	みんなのアイデアをまとめることができた。	中野区がこんな地域に変わるといいな、と思った。
こと・手応えを感じたこと	自分が考えたアイデアが実際に採用された。	みんなの話を聞いて、自分も何かを学ぶことができた。	みんなの意見をまとめることができた。	みんなのアイデアをまとめることができた。	中野区がこんな地域に変わるといいな、と思った。

あなたのハイティーン会議グラフ

●その時に感じていた「手応え」を縦軸に表してみよう

大人に考えや思いを伝えてみて感じたこと

大人に自分の考えや思いを伝えてみて、大人も自分の考えや思いを聞いてくれることができた。大人も自分の考えや思いを聞いてくれることができた。

ハイティーン会議に参加した理由

親がポスターを見て応募をした。

校則 チェレンジを選んだ理由

自分は私立の中学校に通っていて、校則について疑問に思っている。校則について疑問に思っている。

振り返り表

	アイデア出しで	ヒアリング・フィールドワークで	ハイティーン会議の準備や当日の運営で	報告会の準備で	ハイティーン会議の全体を通して
こと・手応えを感じたこと	自分の意見をみんなに伝えることができた。	みんなの話を聞いて、自分も何かを学ぶことができた。	みんなの意見をまとめることができた。	みんなのアイデアをまとめることができた。	中野区がこんな地域に変わるといいな、と思った。
こと・手応えを感じたこと	自分が考えたアイデアが実際に採用された。	みんなの話を聞いて、自分も何かを学ぶことができた。	みんなの意見をまとめることができた。	みんなのアイデアをまとめることができた。	中野区がこんな地域に変わるといいな、と思った。

あなたのハイティーン会議グラフ

●その時に感じていた「手応え」を縦軸に表してみよう

大人に考えや思いを伝えてみて感じたこと

大人たちは自分たちの考えを尊重してくれて、話を聞いてくれた。大人たちは自分たちの考えを尊重してくれて、話を聞いてくれた。

当初は受け身で参加していた参加者も、フィールドワークやインタビューなどを通じて中野のまちやチャレンジテーマに興味をもち、意見や提案を大人に伝えることの難しさを乗り越えながら自分で思いを伝えることの大切さを感じることができたようです。

報告会観覧者アンケート

11月の報告会には、区長・教育長だけではなく、参加者のご家族、地域関係者、学校の先生方など多くの方が観覧にいらっしゃいました（当日観覧者数：45名）。観覧の皆様からいただいたアンケート内容の一部をご紹介します。

属性	報告会をご覧いただいた感想をぜひお聞かせください。	ハイティーンたちに一言、メッセージをお願いいたします。
参加者のご家族	ハイティーンのみなさんとサポートしてくださるスタッフさんたちが、とても良い関係にみえました。中高生にとって、このような関係の体験は財産になりますね。ありがとうございました。	自分の関心事を他者と共有して、様々な取り組みを通して、行政へ提言する形にまとめる というのは、なかなかできない経験。 日本の未来は安心。
参加者のご家族	5つとも素晴らしいプレゼンテーションでした。 中学生、高校生の立場からの中野区をより良いものにしたいという気持ちが伝わり、大人、保護者としては彼らが望むより良い中野区になるよう手伝いができればよいなと思いました。	皆様みたいな中学、高校生が1人でも増えるようになると良いですね。
チャレンジにご協力いただいた方	中高生の率直な意見や考え方に触れることができて、新鮮な思いがしました。	素晴らしい発表でした。うまくいった部分もうまくいかなかった部分も、どれもこれから生かしていけると思います。
学校関係者	中高生の考えを少し理解できたような気がします。しっかり話を聞くことを大切にしたいと思います。	自分から具体的な行動を起こすこと、様々な人と協働することが、これからの未来を拓く鍵になるはずです。
地域企業	みんながわかりやすくみんながつながりみんなで言い合いみんなで決める。そんな社会を若者は作りたいのだと感じました。是非中野から実現出来ればと思っています。	最初から全てうまくいくことはありません。 やり続ける事が大切です。トライアンドエラーを繰り返し是非みなさんの理想を作ってください。
区民	中高生ならではの視点や取り組み方でイベントを開催しており、それを行った上で改めて課題発見をしたり、区長への提言を考えたりしていて本当に凄いと思いました。	本当に素晴らしい報告でした。内容だけでなく、スライドや発表する姿勢も素晴らしかったため、これからの自信に繋げてほしいと思います。

区民	聴くこと、本人が自分事として学校や地域、社会を考え、何をするのか、そこでどんなサポートができるのかが私たち大人に試されている力だと改めて感じました。	皆さまのチャレンジ素晴らしかったです！やはり、中高生の気持ちや意見は本人たちに聞かないと分からないことがたくさんでした。社会に通じるアイデアや課題の抽出、大人はたくさんのことを教えて貰えたと思います。ありがとうございました。
子どもの権利委員	短い期間にテーマと向き合いでできた言葉にどれも実感がこもっていて、心に響きました。座談会も良かったです。具体的に区の変更に繋がったら、しっかり本人達はもちろん、広く発信して欲しいです。	お疲れ様でした！聞きに来られて良かったです。
中野区子どもオンブズマン	言いたいことが言える雰囲気の中で、思ったことを伝えていただけてとても良かったです。	耳を傾けてほしいその言葉に、考えさせられました。一緒に何かできるというなとも思っています。
次世代育成委員	子どもたちが協力しながら、一生懸命、今とこれからを良くしようと、アクションも交えて取り組んだ成果を直接聞くことができて良かったです。	4ヶ月間お疲れ様でした。報告会をゴールではなく、スタートラインとして、これから一緒により良い毎日をつくって行けたら嬉しいです。
区役所関係者	年々アクションも含めて、充実していると感じました。	自分たちに身近なことを考える、こういう取り組みを学校や友達間でも広がるよう頑張ってください。応援しています。
区役所関係者	毎年、とても楽しみに参加させて頂いています。 中高生の声や意見を聞く機会はなかなかありません。課題を解決するプロセスを多く経験したら、より柔軟な考え方ができると気づきます。 来年も子ども達のまっすぐな思いに寄り添う取り組みを続けてください。	お疲れ様でした。 これからも楽しんで頑張ってください。

観覧にお越しいただいた皆様、ありがとうございました。



中野区は、中高生の皆さんの「チャレンジ・アクション」を応援します。

皆さんがハイティーン会議を通して得た考えや気づきを
次のステップにつなげられるよう、工夫をしながら事業を進めていきます。

今後とも、みなさんのご参加をお待ちしています！

(発行) 中野区子ども教育部育成活動推進課

(受託事業者：認定NPO法人カタリバ)

(TEL) 03-3228-5648

(MAIL) kenzenikusei@city.tokyo-nakano.lg.jp